

信を通

わす

6

著作権の関係上、表示できません。

“HDA”の実践と若者の育成



株式会社一柳アソシエイツ 社長
元 通商産業省総務審議官

一柳 良雄氏
(いちりゅう・よしお)

役人時代の友人である石井富山県知事にお願いされて、インテックホールディングスの中尾会長が塾長を務めた「とちま起業未来塾」の塾頭をして3年が過ぎました。これまでに、93名が卒業し、うち41名が実際に創業し、活躍しています。

中尾さんはグローバルな活躍をされている本物の経営者だと思います。明確な理念とポリシーを持ち、体ごとぶつかって学べる方です。

私も富山に行けばプログラムの作成や講義だけでなく、講師陣を監視(?)し、さらには塾生や塾生OBと夜遅くまで酒を媒介に本音で語り合いながら、人間力を磨き、彼らが燃える心を持つための取り組みも続けてきました。

人を育てるには時間がかかります。経験ある経営者が起業志願者に基本を教え、良いところは誉め、時には叱り、指導するということは、後継者を育成するということ、未来に対する大人の責任でもあると思います。

ところで、私は「HDA」が大切だと言っています。Hは「批判」、Dは「代案」、Aは「アクション」です。

先行き不透明な現代は、不満な

現状を批判(H)することは大事なことです。ただ、それを改革するための代案(D)がなければいけません。評論するだけでは世の中はよくなりません。こうすればよくなるという代案が必要です。

そして、最も大切なのは、その代案(仮説)を実現するために自らアクション(A)を起すことです。

一歩踏み出し、壁にぶつかることを繰り返して、修羅場を経験してはじめて、成長するのです。そうすると、自信もつき、自分に協力する人も出てきて、次に進むことができます。

つまり、我々遺暦を過ぎたオッサンは、若者を批判するだけでは駄目です。若者は、大人の背中を見て育てていくのです。私は、若者から「このオッサンええことやとるな」と思われるような「生きた証」を残せればと思います。今春から「一流塾」という若い経営者のための塾をはじめました。私自身も中尾さんから、「ほんもの」を学び、盗み、それを自分のものとするべく、微力ながら新たなHDAを実行しています。皆さんも是非、HDAを実践してください。